

建物の概要

主屋は江戸後期の建築と推定される。当初は2棟の建物を1棟に改造して使用していたが、復原工事により2棟に戻した。主屋(一)は、間口5間半、通り二ツ式二列五間取りで、1階の跳ね上げ大戸、華戸は復原した。主屋(二)は、間口3間半、当初は通り二ツ式一列四間取りであったが、主屋(一)にあわせて一番南の部屋を切つて縁側を設ける改造が行われたと思われる。

離れは昭和初期の建築で、岩村には珍しい書院風の建物である。この離れの内装の一部、敷地内にある土蔵には、明治になって岩村城の建物や用材が払い下げられたものもあると伝わる。

旧勝川家について

勝川家は屋号を「松屋」といい、江戸末期から台頭した材木や米を扱う商家である。町内はもとより町外各地に、松屋山と呼ばれる勝川家所有の山林から伐り出された銘木を保管する専用の蔵があったという。その昔、中庭には米蔵があり、年間三千俵の米を取り扱っていたと伝えられている。幕末には、その財力をもって逼迫した藩財政を支えた。



岐阜県恵那市岩村町 317 Tel.0573-43-4770

開館時間 [夏期] 3月～11月 9:30～16:30
[冬期] 12月～2月 10:00～16:00

休館日 毎週 火曜日

問い合わせ先 恵那市観光協会岩村支部
Tel.0573-43-3231

恵那市指定文化財

江戸城下町の館

勝川家

